



天平の丘公園 再整備基本計画



令和3年3月
下野市



目 次

第1章 計画の前提

1-1	背景と目的	1
1-2	計画対象範囲	3

第2章 天平の丘公園の現況把握

2-1	天平の丘公園の利用状況	5
2-2	上位計画・関連計画との関係	6
2-3	これまでの取組	7
2-4	市民ニーズの把握	16

第3章 天平の丘公園再整備にあたっての課題

3-1	自然要素の課題	21
3-2	公園利用要素の課題	23
3-3	おもてなし要素の課題	25
3-4	運営・管理面の課題	27

第4章 再整備の基本方針

4-1	計画の基本理念と整備目標	29
4-2	エリア別の再整備方針	30
4-3	利用動線計画	32

第5章 再整備計画

5-1	「四季折々の花を通して、自然に親しめる公園づくり」 に関する取組	35
5-2	「にぎわいと活気があふれる公園づくり」に関する取組	42
5-3	「来訪者に優しく、史跡地を周遊しやすい環境づくり」 に関する取組	47
5-4	「公園を効率的に管理できる体制づくり」に関する取組	56
5-5	「地域連携、地域活性化につながる公園づくり」に関する取組	57

資 料

資料1	天平の丘公園再整備事業に関するアンケート調査報告書	
-----	---------------------------	--

第1章 計画の前提

1-1 背景と目的

天平の丘公園は、当初、国分尼寺跡公園として整備し、のちにその周辺に広がる平地林の保全、国分寺・国分尼寺跡の歴史資源を活かした一体的な公園として、昭和63年から5か年をかけて整備しました。現在は、散歩や森林浴などの日常的な市民の憩いの場として親しまれています。また、本公園は本市を代表するにぎわいの場でもあり、春に開催される「天平の花まつり」は市内外のみならず首都圏からも多くの観光客が訪れ、夏の「しもつけ燈桜会」、秋の「天平の芋煮会」のほか、「マルシェ」の開催など特色ある交流イベントが行われています。

しかし、駐車場やトイレ、休憩施設等は整備から30年余りが経過したことから施設の老朽化が進み、多様化する利用者ニーズに対応できていない状況です。

一方、本市には国指定史跡である下野薬師寺跡、下野国分寺跡、下野国分尼寺跡が所在するなど多くの地域資源を有することから、平成31年3月に「下野市歴史的風致維持向上計画」を策定し、その重点区域である国分寺地区にあって、本公園は象徴的な位置づけにあります。加えて、平成31年4月施行の改正文化財保護法により文化財のあり方は、“保存・保護”から“保存・保護しつつ活用”へとシフトされました。

これらをふまえ、令和2年2月に策定した「天平の丘公園再整備基本構想」では、年間を通してより多くの利用者が訪れる魅力的な公園を目指し、再整備することとしました。

本計画は、「天平の丘公園再整備基本構想」の方針に基づきながら、市民意向を反映した施設整備の基本的な考え方を示すものです。

1) 天平の丘公園の位置づけ

- ・天平の丘公園は、本市の南西部に位置し、下野国分寺跡及び下野国分尼寺跡とその南側に広がる平地林と一体的な空間を形成する都市公園であり、多くの市民に親しまれている場所です。
- ・各種イベントの開催や日常的な公園利用等により年間20万人以上の利用があり、本市における都市活性化を促進する拠点として位置づけられています。
- ・主要なアクセス道路には北部を通る県道44号線（栃木・二宮線）、西部を通る県道18号線（小山・壬生線）があります。

2) 天平の丘公園周辺地区の歴史的環境

- ・天平の丘公園は、思川と姿川に挟まれた台地上に位置しています。この地域は、古墳時代後期から終末期にかけての大型古墳が集中していることから、下毛野の中心的地域と考えられています。奈良時代には思川右岸に下野国庁が造られ、西暦741年には聖武天皇による国分寺建立の詔により下野国分寺・国分尼寺の造営がはじまりました。国分寺建立の詔には各国で国の中から「良き処」を選んで、国分寺を建立するよう記されていることから、当公園周辺地域は、下野国の中心地域で災害も少なく国内で一番良き処として選ばれたと推測されます。

- ・国分寺が衰退した後、国分寺跡周辺は近世まで平地林であり、その後も大きな開発などがなかったことから遺構が保護されていました。このため建物基壇跡と推測される地膨れ状の高まりが残り、国分寺の銘が刻まれた文字瓦が出土していたことから、大正 10 年（1921）に国の史跡に指定されました。下野国分尼寺跡は場所が不明でしたが、開発に伴う造成工事中に発見されたことにより、緊急発掘調査を行い昭和 40 年（1965）に国指定の史跡となりました。国分二寺とも地域住民等の協力のもとに今日まで発掘調査や文化財として保存整備が進められています。
- ・下野国分寺跡では平成 18～25 年度に「下野国分寺跡史跡保存整備事業」、下野国分尼寺跡においては平成 27～令和 2 年度に「下野国分尼寺跡第 2 期保存整備事業」が実施され、保存と活用が進められています。

3) 天平の丘公園の特徴

- ・本公園の前身である国分尼寺跡公園は、昭和 42 年から下野国分尼寺跡の史跡整備事業により整備を開始し、淡墨桜を植栽するなど、史跡の保存とともに地域住民の交流の場として供用していました。
- ・昭和 57 年～63 年には栃木県による首都圏自然歩道整備を実施、昭和 63 年からは環境保全のための平地林買収により、天平の丘公園としての整備を開始し、現行施設でもある平成の丘・万葉植物園・秋山亭・トイレ・池・駐車場等を設置し、その後も観光広場や民俗資料館、園路、案内板、駐車場追加など、徐々に施設充実を図ってきました。
- ・現在の公園総面積は約 27ha まで拡大され、園内には、野球場、聖武館（体育館）、しもつけ風土記の丘資料館のほか、平成 30 年は古民家カフェのオープン、令和 2 年には複合遊具のあるこども広場を新設し、子どもから高齢者まで広く市内外の方に利用されています。
- ・3月下旬から5月上旬まで開催される「天平の花まつり」は市内外のみならず首都圏からの観光客も多く、毎年 20 万人以上が訪れ、また、夏には 4,000 個以上もの燈により幻想的な風景を生み出す「しもつけ燈桜会」、秋には関東最大級の大鍋を使用した「天平の芋煮会」のほか、平成 30 年からは古民家カフェを中心とした「マルシェ」の開催など特色ある交流イベントを実施しています。
- ・これらの取組と下野国分寺跡・下野国分尼寺跡の史跡整備より、今後も、本公園は下野市の歴史とにぎわいの拠点としての役割が期待されています。

1-2 計画対象範囲

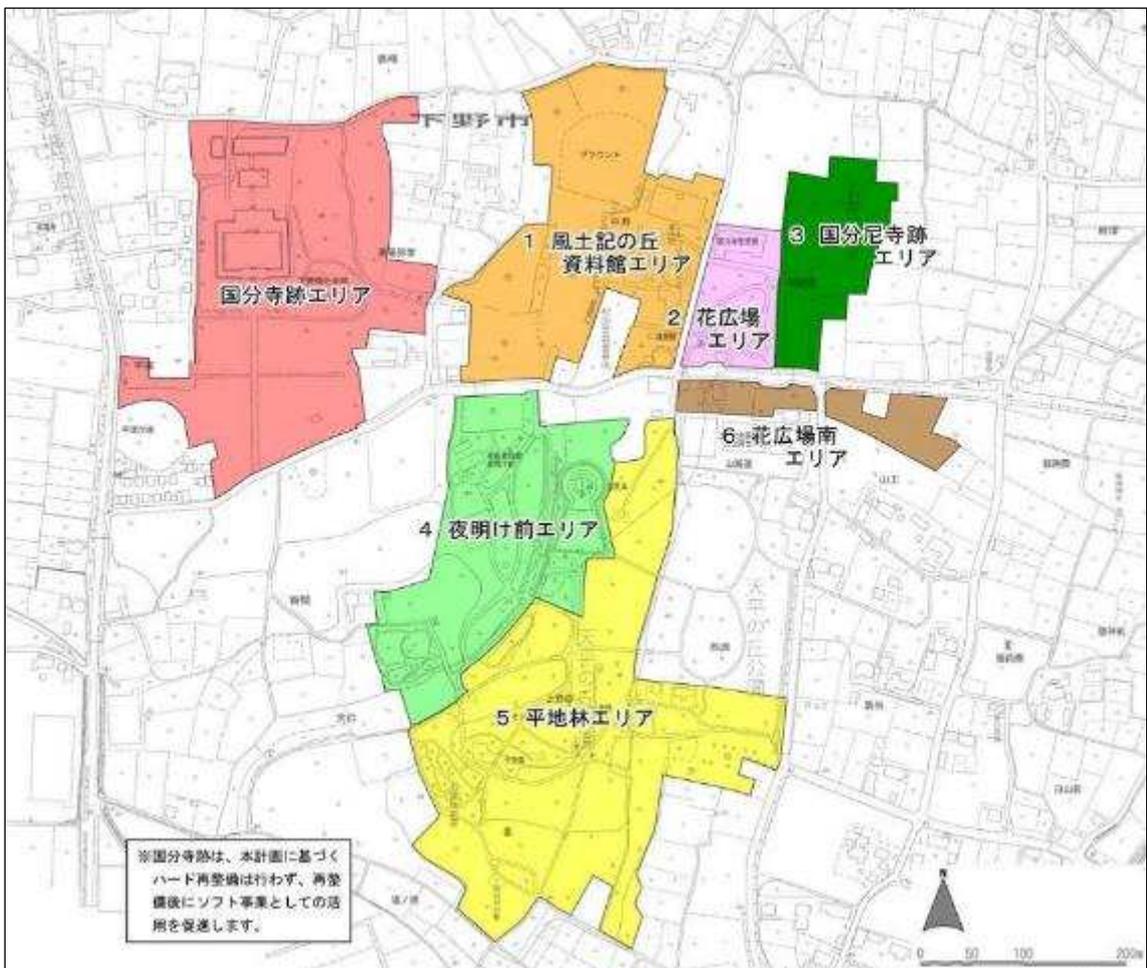
1) 計画対象範囲の面積

・本公園は都市公園（種別：地区公園）に位置づけられ、計画対象範囲は次のとおりです。

項目	面積 (㎡)	備考
天平の丘公園	274,027	
国分寺跡	64,504	
国分尼寺跡	28,080	淡墨桜
風土記の丘資料館周辺	11,273	しもつけ風土記の丘資料館、淡墨亭
花広場・聖武館	11,357	花広場、聖武館、トイレ
西駐車場	35,555	
東駐車場	5,230	
夜明け前・平地林	118,028	民俗資料館夜明け前（古民家カフェ）、秋山亭、四阿、トイレ等

※「面積」は現況範囲であり、本検討での拡張部は含まない。 資料：都市公園台帳 令和3年1月末現在

■計画対象範囲



エリア	エリアの説明（現状）
1 風土記の丘資料館エリア	天平の丘公園北部中央に位置し、下野国分寺跡・国分尼寺跡、花まつり会場にアクセス可能な駐車場を擁するエリア
2 花広場エリア	天平の花まつり・芋煮会のメイン会場となるエリア
3 国分尼寺跡エリア	国分尼寺跡地であり、淡墨桜が植えられているエリア
4 夜明け前エリア	民俗資料館夜明け前（古民家カフェ）や大型遊具のあるこども広場、国見山などがあり、しもつけ燈桜会のメイン会場となるエリア
5 平地林エリア	平地林内に古墳や万葉植物園があり、主に散策に活用されているエリア
6 花広場南エリア	花広場の南側に位置し、十月桜が植えられているエリア

資料：天平の丘公園再整備基本構想

第2章 天平の丘公園の現況把握

2-1 天平の丘公園の利用状況

1) 公園の利用者

- ・本市の年間観光客入込数は、平成27年から減少傾向にあり、令和元年では約223.6万人でその多くを「道の駅しもつけ」が占めていますが、本公園の最大イベントである天平の花まつりは概ね20万人で推移しており、安定した人気うかがえます。
- ・平成30年における本公園イベント別では、しもつけ風土記の丘資料館約2.1万人、古民家カフェ約2.2万人と通年での利用があります。その他は開催時期の限定されるイベントが数回ある状況です。
- ・歴史探索以外の日常的な公園利用においては、散歩やウォーキングなどでの中高年層の来訪が多くみられます。また、古民家カフェ運営者が子育て世代を対象に実施しているイベントや古民家南側に子どもの遊び場として複合遊具のあるこども広場を令和2年3月に供用開始したことにより、徐々に子育て世代の利用が増加しています。

■観光客入込数の推移

単位：人

項目	H26年	H27年	H28年	H29年	H30年	R1年
下野市	2,525,169	2,847,467	2,476,659	2,363,209	2,313,409	2,235,692
うち天平の花まつり	196,000	208,000	197,000	204,000	211,000	202,000

資料：令和元年栃木県観光客入込数・宿泊数推定調査結果

■平成30年 天平の丘公園における月別観光客入込数の推移

単位：人

推計月 イベント	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
花まつり			49,000	159,000	3,000								211,000
芋煮会											6,000		6,000
マラソン大会	3,500												3,500
風土記資料館	675	397	1,804	9,121	2,080	1,080	645	1,045	980	1,020	1,149	715	20,711
古民家カフェ	-	-	-	5,165	2,377	2,407	1,787	1,832	1,972	2,597	1,950	1,707	21,794
計	4,175	397	50,804	173,286	7,457	3,487	2,432	2,877	2,952	3,617	9,099	2,422	263,005

資料：市調査

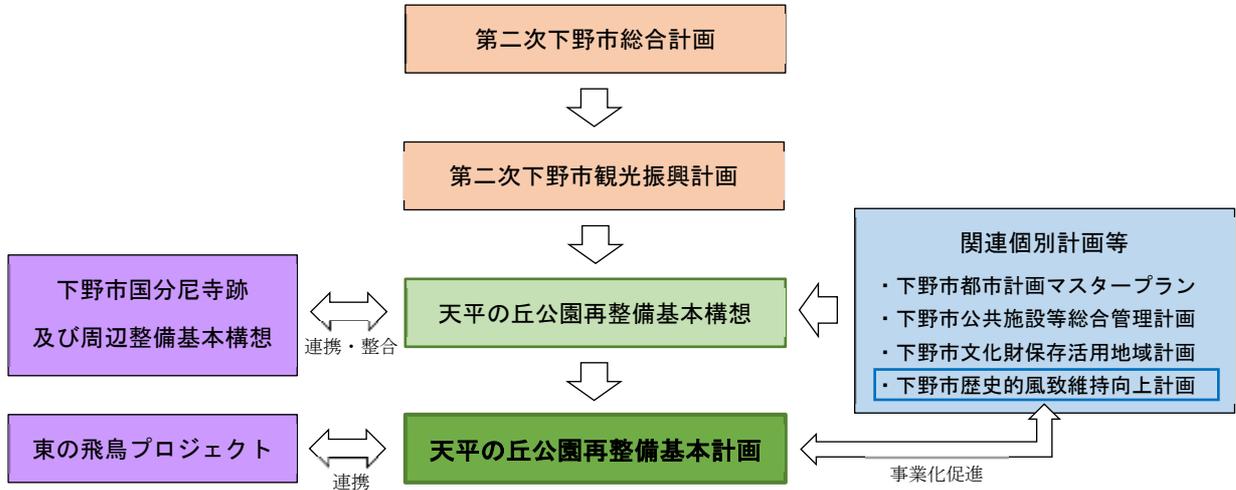
2) 新たなイベント開催の状況

- ・平成30年オープンの古民家カフェ「10 picnic tables (テンピクニックテーブルス)」とともに、令和元年5月に「森乃野掛 (もりののがけ)」、9月に「coconico (ココニコ)」といったマルシェイベントが開催され、多くの出店者と来訪者でにぎわい、特に若者やファミリー層の新たな利用がみられました。
- ・令和元年8月23日～25日に、本公園の夜明け前エリアをメイン会場にキャンドルイベント「しもつけ燈桜会 (とうおうえ)」を開催したところ、参加者には好評であり、新たな夏のイベントとしての定着が見込まれます。

2-2 上位計画・関連計画との関係

公園の位置づけや役割などを示す上位計画・関連計画と、公園施設整備の基本的な考え方を示す本計画との関係性は次のとおりです。

■上位計画・関連計画との関係性



■上位計画・関連計画と天平の丘公園に係る要素

関係	計画名	天平の丘公園に求められる整備・機能
上位計画	第二次下野市総合計画 (平成 28 年 3 月)	<ul style="list-style-type: none"> 文化財活用広域連携拠点及び観光交流拠点の形成 文化遺産の保存と活用(史跡保存整備事業の推進、風土記の丘資料館の整備・拡充、他市町との連携事業等) 市民が安心して憩える公園・緑地の創出(市民との協働による維持管理体制づくり) 「観光まちづくり」の展開による、市民の誇りと生きがいにつながる地域づくりの推進 魅力的観光の推進(観光施設の環境整備・充実)
	第二次下野市観光振興計画 (平成 31 年 1 月)	<ul style="list-style-type: none"> 観光プロモーションの推進(東の飛鳥プロジェクトの推進) 観光協会の充実・強化(観光ボランティアの育成・支援) 観光施設の環境整備・充実(天平の丘公園再整備)
関連計画	下野市国分尼寺跡 及び周辺整備基本構想 (平成 24 年 3 月)	<ul style="list-style-type: none"> 公有地化の推進 センターゾーンの整備(西 1 駐車場、文化財交流センターの整備) 南側公園における既存施設の再整備と公園としての利用度向上
	下野市都市計画マスタープラン (平成 29 年 3 月)	<ul style="list-style-type: none"> 歴史文化遺産を活かした広域的な交流、観光などの活力づくり 都市公園としての適正な維持管理、魅力づくり 史跡景観の保全、平地林等の緑豊かな個性ある景観形成
	下野市公共施設等総合管理計画 (平成 29 年 3 月)	<ul style="list-style-type: none"> 老朽化が進行し、利用上不要と判断される施設の除却 指定管理者制度の導入等による維持管理、運営の効率化 遊具等の計画的な修繕・更新
	下野市歴史的風致維持向上計画 (平成 31 年 3 月)	<ul style="list-style-type: none"> 平地林の保全及び公園施設のユニバーサルデザイン化等を考慮した再整備 公園を横断する市道 2-22 号線の再整備 下野国分尼寺跡保存整備事業、風土記の丘資料館整備事業など
	下野市文化財保存活用地域計画 (令和 2 年 7 月)	<ul style="list-style-type: none"> 文化財活用のための拠点づくり(年間を通して来訪客を誘致) しもつけ風土記の丘資料館整備事業、下野国分尼寺跡保存整備事業、天平の丘公園再整備事業(平地林の保全、公園施設のユニバーサルデザイン化、市道 2-22 号線の再整備)の実施
	東の飛鳥プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> 風土記の丘資料館のリニューアル 下野国分尼寺跡の第 2 期保存整備事業の推進 天平の丘公園等の再整備

2-3 これまでの取組

1) 整備項目（時系列）

・旧国分寺町から現在までに実施されてきた本公園の主な整備項目は、次のとおりです。

■現在までの主な整備項目

年度	事業名	事業内容	事業主体
S42 ～45	下野尼寺跡史跡整備事業	・尼寺跡の測量、整地 ・発掘調査、基壇整備等 ・外柵、標柱、説明板、ベンチ設置等	旧国分寺町
S50		・尼寺跡周辺約3ha買収	
S58		・レストハウスしもつけオープン	
S60		・尼寺史跡公園内に淡墨桜植栽	
S57 ～63	首都圏自然歩道整備 (関東ふれあいの道)	・風土記のみち(17.5km) ・ゆうがおのみち(9.1km)	栃木県
S63 ～H4	ふるさとづくり 特別対策事業	・平地林保全のため11ha買収(うち3ha県有地) ・天平の丘公園整備開始 ・平成の丘整備、万葉植物園整備 ・管理棟兼研修棟(秋山亭)建設 ・トイレ(秋山亭西側)整備 ・わんぱくの森整備 ・流れ(子宝橋周辺)整備 ・駐車場整備、四阿整備(2棟)	旧国分寺町
H2	自然公園等 施設整備助成事業	・尼寺西駐車場整備	
H4		・淡墨亭開業	
H5	ふるさとづくり事業	・観光広場整備(花広場造成、トイレ、野外ステージ整備)	
	自然公園等 施設整備助成事業	・尼寺公園観光広場拡張	
H6		・民俗資料館「夜明け前」周辺2ha買収	
H7		・民俗資料館「夜明け前」整備	
	県産材利用施設 普及事業	・「夜明け前」展示室新築	
	ふるさとづくり事業	・淡墨街道歩道整備	
	街道景観形成 市町村事業	・防人街道街路灯設置、案内板設置	
H10 ～11	自然公園施設 整備事業	・天平の丘公園西駐車場園地整備	
H12	自然公園施設 整備事業	・天平の丘公園南駐車場園地整備 ・第二ハス池・天平の大鍋完成	
H13	自然公園施設 整備事業	・天平の丘公園西駐車場舗装整備	
H18 ～19	首都圏自然歩道整備 (関東ふれあいの道)	・風土記のみち事業関連親水広場整備	旧国分寺町 下野市
H18 ～25	下野国分寺跡 史跡保存整備事業	・史跡地の公有化、建物基壇整備、園路整備等	下野市
H23	栃木県植樹祭	・栃木県植樹祭における広場整備	
H25 ～31	下野尼寺跡 第2期保存整備事業	・用地買収、発掘調査 ・第一期保存整備	
H30	夜明け前再整備事業	・古民家カフェ開業	
R1	複合遊具等設置工事	・こども広場整備	

資料：下野国分尼寺跡及び周辺整備基本構想等に基づき作成

2) ゾーン別整備状況と課題点

- ・「天平の丘公園再生整備基本構想」により整理されたゾーンごとの整備状況と利用促進の視点における課題を再整理します。
- ・特に今回の計画期間での整備候補として優先度が高い項目を整理します。

①風土記の丘資料館周辺、花広場、国分尼寺跡エリア



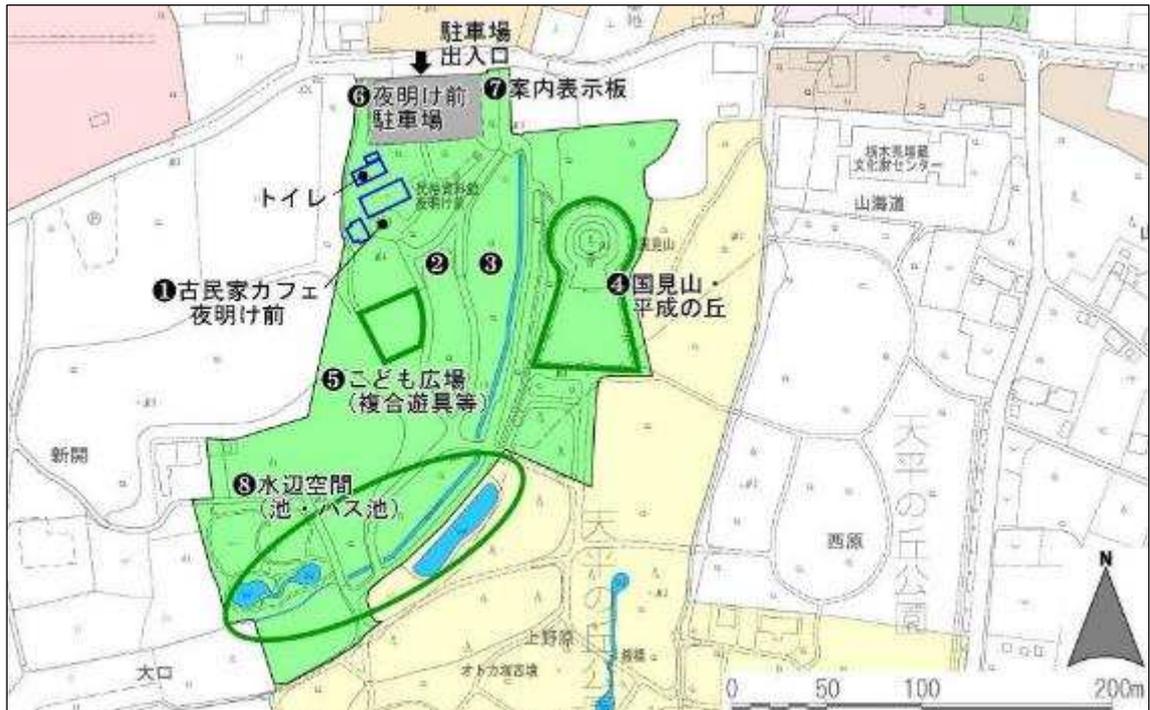
<p>①しもつけ風土記の丘資料館</p>	<p>・昭和61年に栃木県南部の古墳や古墳時代、奈良・平安時代の国府・薬師寺・国分寺などの史跡の紹介、研究機関として栃木県が設立し、平成27年4月に下野市へ移管されました。</p> <p>・機能向上・交流促進のために新館を令和3年度にオープンします。</p>	
<p>②八重桜</p>	<p>・天平の花まつりのメイン会場である花広場を囲むように数種類の八重桜が植えられており、例年4月上旬から下旬にかけて開花します。</p>	
<p>③滝桜</p>	<p>・花広場内にある福島県三春町の天然記念物滝桜の実生苗から育った桜です。平成8年に三春町から譲り受けました。例年3月下旬に開花します。</p>	
<p>④淡墨桜（うすずみざくら）</p>	<p>・下野国分尼寺跡の史跡地内にある岐阜県旧根尾村の国天然記念物の淡墨桜の実生苗から育った桜です。例年3月下旬ころから開花し、ピンクの蕾から淡白色の花が咲き、満開を過ぎると淡い墨をかけたような色に変化します。</p>	

⑤西駐車場	<ul style="list-style-type: none"> ・天平の花まつり等のイベント時のメイン駐車場です。 ・経年変化の劣化により駐車枠線の大部分が消えています。 	
⑥花広場トイレ	<ul style="list-style-type: none"> ・平成5年に整備された屋外トイレです。 ・施設管理としてサンタリー部分の再整備を実施していますが、建物本体の老朽化等がみられます。 	
⑦市道 2-22 号線	<ul style="list-style-type: none"> ・本公園の各エリアを結ぶ主要な東西軸です。 ・淡墨亭から西駐車場の区間は段差がある片側歩道で特に幅員が狭くなっています。 	

■現状課題と本計画の検討対象

項目		現状課題	実施時期
風土記の丘資料館エリア	資料館	・風土記の丘資料館の増築	R3年3月完成
	駐車場	・駐車マスのライン引き直し	短期
		・駐車場北側退出路の整備	長期
		・身障者駐車エリアの設定	短期
		・駐車場から他のエリアへの誘導	短期
		・駐車場の拡張（尼寺グラウンドの駐車場化）	長期
		・トイレの設置	長期
	公園管理施設	・公園管理施設の建設	長期
		・花まつり等イベント時の本部のあり方	長期
	レストハウスしもつけ	・レストハウスしもつけのあり方	長期
その他	・西行桜の見せ方	短期	
	・資料館との連携	短期・継続	
	・市道 2-22 号線の歩道のあり方、舗装の老朽化	短期	
花広場エリア	植栽	・八重桜の老木化	短期・継続
		・桜、ツツジ以外の植物がない	長期
		・園路に飛び出た桜の枝	短期・継続
		・四季を通じた植栽のあり方	長期
	施設	・トイレの老朽化	短期
		・イベント時のトイレ不足	長期
		・駐輪場	長期
		・常葉亭ステージの活用	短期・継続
		・イベント時の広場の貸し出し	短期・継続
		・グレーチングの老朽化	長期
		・ユニバーサルデザイン	長期
		・歩道	長期
		・案内看板（外国語表記）	長期
その他	・護国殿		
国分尼寺エリア	淡墨桜	・淡墨桜の老木化	短期・継続
		・子孫樹の育成	短期・継続
		・淡墨桜への誘導標識	短期
	尼寺跡地	・文化財課による聖武館北側等の整備、活用	R3 完成
	その他	・樹木、遊具等の設置が困難である	

②夜明け前エリア



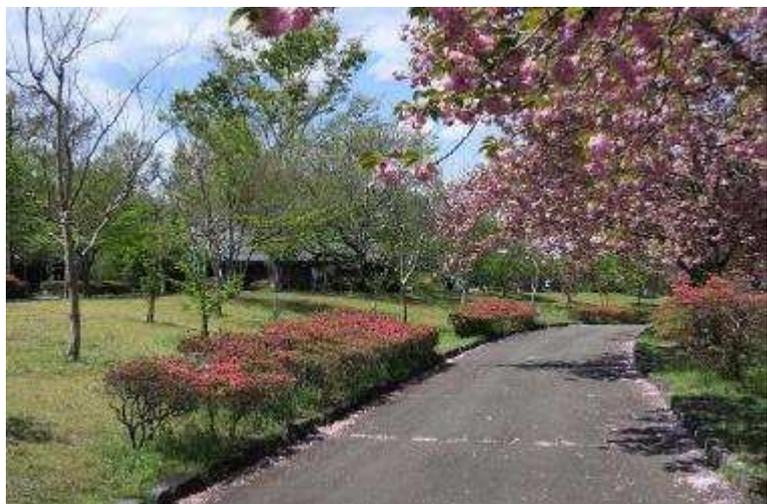
<p>①古民家カフェ 夜明け前</p>	<ul style="list-style-type: none"> 江戸時代末期に建てられた農家住宅を平成7年に現在の場所に移築し、民俗資料館として利用しました。 平成30年4月、地方創生拠点整備交付金を活用して古民家カフェにリノベーションし、同年11月にマロニエ建築優良賞を受賞しました。 令和3年2月には「旧山中家住宅主屋（民俗資料館夜明け前）」として国の登録有形民俗文化財指定を受けました。 	
<p>②石割桜</p>	<ul style="list-style-type: none"> 盛岡地方裁判所敷地内に咲く天然記念物「石割桜」の子孫樹です。 古民家カフェ夜明け前の南側にあり、例年3月下旬に開花します。 	
<p>③芝生広場</p>	<ul style="list-style-type: none"> 古民家カフェ夜明け前東側にある、二十数本の八重桜に囲まれた広場です。 花広場がステージなどで賑やかな花見会場であるのに対し、芝生広場は静かに花見を楽しむ会場です。 	
<p>④国見山 ・平成の丘</p>	<ul style="list-style-type: none"> 前方後円墳を模しており、後円部分の高まりを国見山、全体の名称を平成の丘といいます。 塚の造成工事中に大量の古銭が発見されました。 国見山には百日紅があり、夏に赤い花を咲かせます。 	
<p>⑤こども広場</p>	<ul style="list-style-type: none"> 令和2年3月に供用開始された子供向け広場であり、中央に設置した大型複合遊具は子供連れの利用者に好評で、本公園の新たな魅力となっています。 	

⑥夜明け前駐車場	<ul style="list-style-type: none"> ・日常的に公園来訪者に利用されている駐車場です。 ・経年変化の劣化により駐車枠線が消えており、身障者用駐車スペースも未設置です。 	
⑦案内表示板	<ul style="list-style-type: none"> ・駐車場東側の緑地帯に設置した木製の総合案内板です。 ・経年変化による劣化がみられ、また新設施設が表示されていません。 	
⑧水辺空間	<ul style="list-style-type: none"> ・夜明け前エリアの南端部には水生植物園があり、木製の園路により水上散策が楽しめます。 ・池周辺の園路を含め、破損箇所がみられます。 	

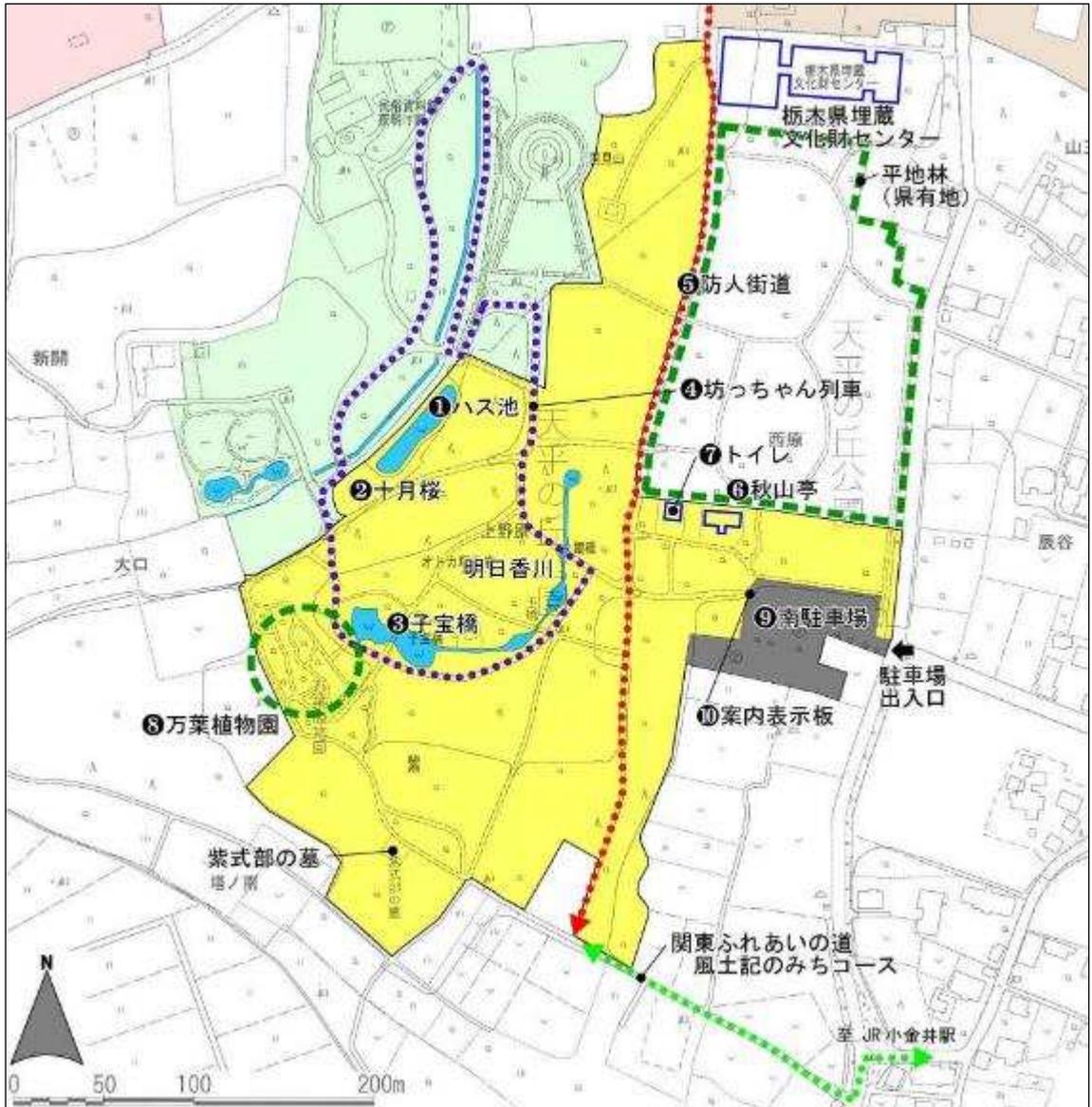
■現状課題と本計画の検討対象

項目		現状課題	実施期間
夜明け前エリア	花広場からのアクセス	・市道 2-22 号線を通らない通路の整備	長期
	施設	・駐車マスのライン引き直し	短期
		・花広場との見せ方の違い	長期
		・国見山外周の堀の活用	短期
		・水生植物園の管理	短期・継続
		・遊具の設置	R 2 年 3 月設置済
		・展望塔の設置（上から桜をみる仕掛けづくり）	長期
	古民家カフェ	・古民家運営者との連携	短期・継続
	植栽	・植栽の整理	短期・継続
・十月桜、百日紅、ツツジ等の活用		短期	
その他	・丘陵地形を活かしたイベントの実施	短期・継続	

■園路沿いに植栽されたツツジ



③平地林エリア



①ハス池	<ul style="list-style-type: none"> 5月からハスの葉が水面を埋め尽くし、6月下旬から8月にかけて美しい花を咲かせます。 	
②十月桜	<ul style="list-style-type: none"> ハス池の南側にあり、春と秋に花を咲かせます。 	
③子宝橋	<ul style="list-style-type: none"> 万葉集に歌われた山上憶良の詩から命名された、園内を流れる明日香川の南端明日香池に架かる橋です。 	
④坊っちゃん列車	<ul style="list-style-type: none"> 主に花まつり期間中に運行しています。 夜明け前周辺から平地林内を約15分かけて一周します。(運行コースは紫点線) 	

⑤防人街道 (赤点線)	<ul style="list-style-type: none"> ・木立の中を進む遊歩道です。園路の両側に木々が立つ様子が、下野国の物部真嶋が防人として筑紫に派遣された際に詠んだ歌の情景に似ていることからこの名称がつけました。防人街道や園内の通路をたくさんの方が散策しています。 	
⑥秋山亭 (しゅうざんてい)	<ul style="list-style-type: none"> ・額田王の歌にちなんで命名された研修・公園管理等の施設です。 ・花まつり時に山野草や陶芸作品等の展示を行います。また、市内外の団体等の研修会等に使用しています。 	
⑦秋山亭西側トイレ	<ul style="list-style-type: none"> ・公園南側唯一の屋外トイレで、主に平地林を散策する方や秋山亭の来訪者が利用しています。 ・サニタリー部分は再整備を実施していますが、建物本体の老朽化等や通路の破損がみられます。 	
⑧万葉植物園	<ul style="list-style-type: none"> ・万葉集に詠まれた花木・草花等により整備された植物園で季節ごとの彩りにより多くの来訪があります。 ・近年は花つき悪くなってきた植物や老朽化による花壇等の破損もみられます。 	
⑨南前駐車場	<ul style="list-style-type: none"> ・公園南入口用の駐車場で、駐車スペースに合わせて緑地帯が配置されています。 ・平地林散策を目的とした利用者が多くみられます。 	
⑩案内表示板	<ul style="list-style-type: none"> ・駐車場西側のオープンスペースに設置した木製の総合案内板です。経年変化による劣化がみられ、また新設施設が表示されていません。 	

■現状課題と本計画の検討対象

項目		現状課題	実施時期
平地林エリア	植栽	・ヤマザクラの活用	短期・継続
		・樹木の整理	短期・継続
		・間伐材の活用	短期・継続
		・四季折々の植栽 (ヤマザクラ以外)	短期・継続
		・落ち葉対策	短期・継続
		・平地林内の日照の確保 (安全性、平地林の更新)	短期・継続
	施設	・防人街道と園路の融合、活用方法	長期
		・点在するベンチのあり方	短期
		・四阿のあり方	短期
		・秋山亭のあり方	長期
		・万葉植物園のあり方	短期・継続
		・園内での滞留時間を増やすための仕掛けづくり	短期
		・明日香川の排水の利用方法	長期
		・赤道の取扱い	長期
		・元アスレチック設置場所の活用方法	長期
		・園内を散策している人の健康づくり支援 (器具など)	長期
		借地	・県有地の取扱い
	・借用民有地の取扱い		短期
	その他	・鯉の活用方法	長期
・歌碑、石碑の管理		長期	

④花広場南エリア



<p>①カラクリ水車</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・約 100 年前のカラクリ水車を旧西方町金崎（現栃木市）から移築しました。建物本体は、間口 8 間、奥行 4 間で内部には寝室と思われる 6 帖間と休憩室兼見張り場の 3 帖と土間があります。 ・中央床下を水路が横断し直径 4 m の水車をまわし、12 のキネを持ち上げて米をつき、もう一方では二つの石うすで麦や蕎麦の粉をひきます。 ・キネを動かすと同時に行う粉ひきを、完全に自動化させた大小 10 個の歯車の精巧な仕掛けにより「カラクリ水車」と呼ばれます。 	
<p>②十月桜</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・カラクリ水車の東側にあり、春と秋に花を咲かせます。 	
<p>③東駐車場</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・東方面からの来訪に一番近い砂利敷きの駐車場で、花まつりなどのイベント時のサブ駐車場として利用されています。 	

■現状課題と本計画の検討対象

項目		現状課題	実施期間
花広場南エリア	エリア全般	・かたかご亭のあり方	長期
		・水車小屋のあり方、見せ方	長期
		・このエリアの活用方法	短期
		・借地民有地の取扱い	短期

項目		現状課題	実施期間
その他	全般	・各種イベント時の電源対応	長期
		・公園施設の管理者（指定管理の導入など）	長期
		・下野国分寺跡への誘導	短期

3) 取組の総括

- ・本公園の整備にあたっては、旧国分寺町時代に下野国分尼寺跡の史跡保存活動に合わせて、地域住民の郷土愛醸成と憩いの場の融合として、桜あふれる尼寺史跡公園づくりから始まり、以降、歴史資源の保存拡大と平地林の保全促進などの必要性を理由に様々な施策・事業を丁寧かつ細やかに継続してきました。その結果、歴史・自然を基軸に学び・交流・健康の促進において他都市でも類を見ない魅力により、市内外の多くの来訪者に愛される公園へと成長してきました。その一方で、整備実施からの時間経過により、桜の老木化や万葉植物園の植生低下、駐車場・トイレ等休憩施設・案内施設の老朽化が顕著になり、今後の集客性にも影響が懸念されるところです。このことから、本計画においては、施設の現状にもとづく施策実施の優先性を念頭においたうえで公園再整備を進めることが求められます。

■多くの来訪者が春を楽しむ「天平の花まつり」



■幻想的な夏の風景を生み出す「しもつけ燈桜会」



2-4 市民ニーズの把握

1) 本公園整備に関する市民アンケート調査の実施

- ・天平の丘公園再整備の検討資料として、本公園及び周辺における歴史資源に対する市民の意見を把握するため、公園等の利用状況、施設・イベントの満足度、今後の要望などに関するアンケート調査を実施しました。

■調査の概要

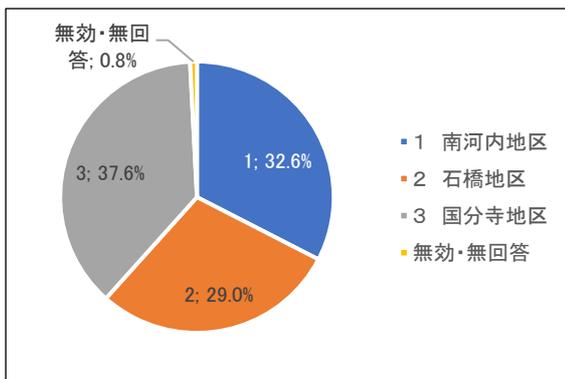
調査地域	下野市全域
調査対象	住民基本台帳（令和2年8月1日時点）から16歳から79歳までの市民2,000人を無作為抽出
調査方法	郵送配布、郵送回収
実施期間	令和2年8月21日～9月7日
調査票回収数	617票
調査票回収率	30.9%

2) 調査結果の概要

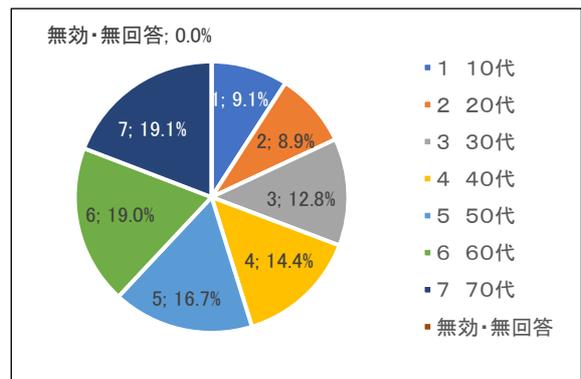
①お住まいと年齢層

- ・回答者の居住している地区は、「南河内地区」が32.6%、「石橋地区」が29.0%、天平の丘公園が位置する「国分寺地区」が37.6%となっています。
- ・年齢層が高くなるにしたがって占有率が上昇し、総体的には高い年齢層の方が公園や歴史的資源への関心度は高いことがうかがえます。

■お住まい



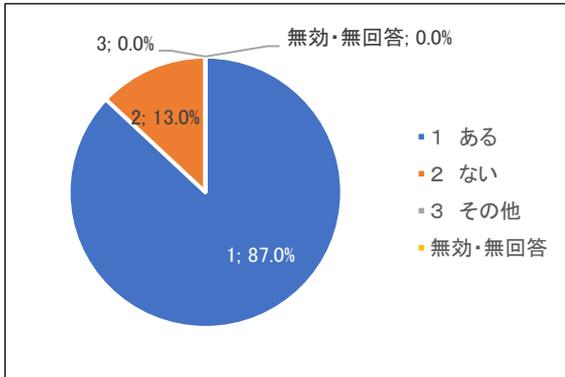
■年齢層



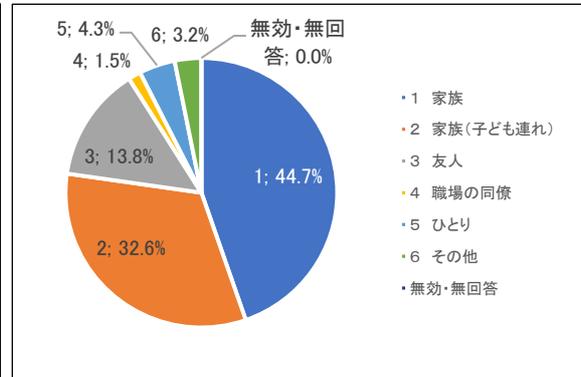
②公園の来訪歴と来訪時のグループ

- ・回答者の約9割が、天平の丘公園や周辺の歴史的資源を来訪した経験があります。
- ・子どもを含む家族の来訪が約8割であり、イベント開催をふまえると、本公園は子育て支援とともに家族交流の場として重要な役割を担っていることがうかがえます。

■来訪歴



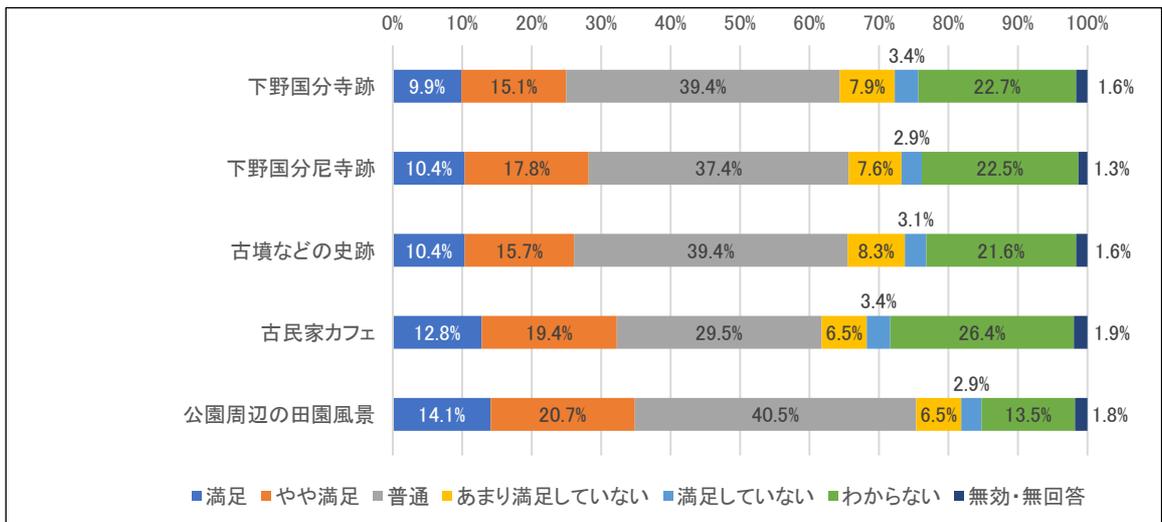
■来訪時のグループ



③公園が持つ魅力の評価

- ・「下野国分寺跡」「下野国分尼寺跡」「古墳などの史跡」の魅力は、いずれも「満足」と「やや満足」を合わせたプラス評価は25%~28%ですが、整備が完了した「下野国分寺跡」が若干低い評価となりました。
- ・「古民家カフェ」の魅力は、「満足」と「やや満足」を合わせたプラス評価は32.2%で、歴史的資源よりも満足度が高くなっていますが、「わからない」も26.4%と他よりも高いことから、今後の施設PRが課題となります。
- ・「公園周辺の田園風景」については、「満足」と「やや満足」を合わせたプラス評価は34.8%で、上記の施設等よりも評価されており、公園との調和や下野市らしさの原風景として価値がうかがえます。

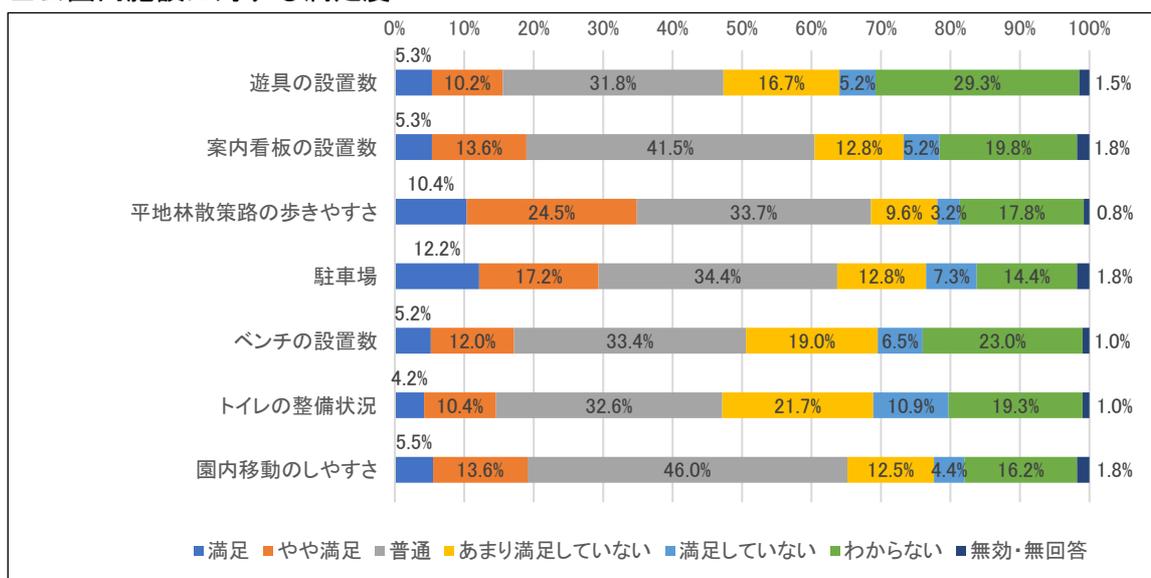
■公園が持つ魅力の満足度



④公園内施設の評価

- 公園内施設の魅力については、「満足」と「やや満足」を合わせたプラス評価が最も高いのは“平地林散策路の歩きやすさ”の34.9%で、また、「あまり満足していない」と「満足していない」を合わせたマイナス評価も12.8%で最も低く、天平の丘公園の大きな魅力であることがうかがえます。
- プラス評価が2番目に高いのは“駐車場”の29.4%で、設置場所も多く、広面積であることから、イベント時以外の平時の来訪では誰でも駐車しやすいことが評価されたと考えられます。
- “案内看板の設置数”と“園内移動のしやすさ”については、プラス評価がマイナス評価を少し上回りますが、“ベンチの設置数”“トイレの整備状況”についてはマイナス評価の方が大きく、環境改善の対応が求められます。
- “トイレ”においてはマイナス評価が32.6%でもっとも高く、老朽化をふまえれば早急の対応が必要です。
- “遊具”は令和3度末に整備した新規施設がまだ周知できていないことから「わからない」が29.3%で他項目よりも高くなっていますが、供用開始4ヶ月間でプラス評価が15.5%得られたことは、今後の公園利用者増加の一因として期待されます。

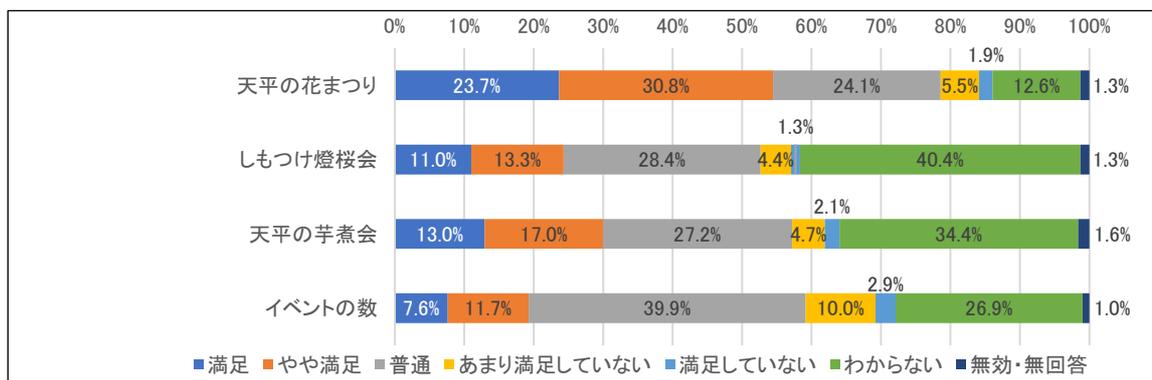
■公園内施設に対する満足度



⑤主要イベントの評価

- ・本公園における主要なイベントについては、最も来訪者が集中する“天平の花まつり”のプラス評価が54.5%で特に高く、市民にとっても重要な魅力となっています。
- ・次にプラス評価が高いのは“天平の芋煮会”の30.0%であり、“しもつけ燈桜会”は24.3%ですが、いずれも「わからない」の評価が最も高いことから、今後のPR等の誘客の必要性がうかがえます。
- ・“イベントの数”においては、プラス評価がマイナス評価を6.4%上回っていますが、マイナス評価は他項目よりも高いことから、改善ポイントとして可能性がうかがえます。

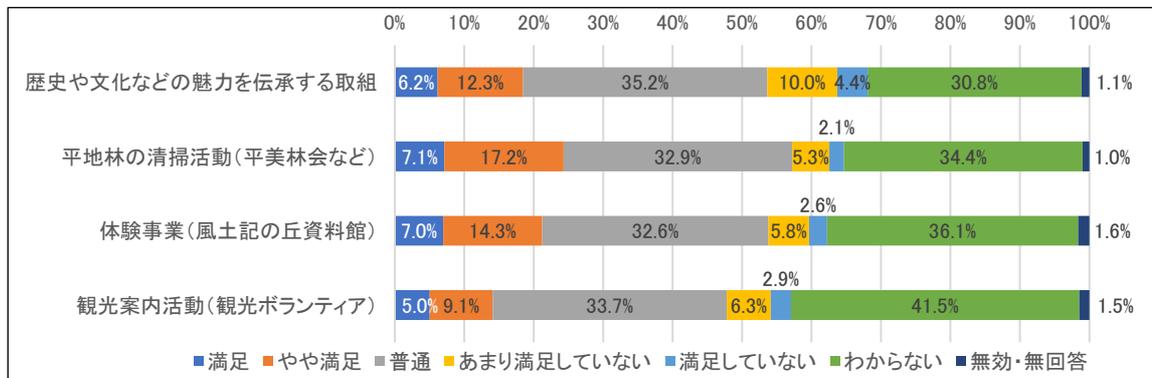
■主要イベントに対する満足度



⑥地域活動の評価

- ・地域活動でプラス評価が最も高いのは“平地林の清掃活動（平美林会など）”の24.3%であり、次いで“体験事業（風土記の丘資料館）”の21.3%となっています。
- ・“歴史や文化などの魅力を伝承する取組”はプラス評価が18.5%ですが、マイナス評価が14.4%で他項目よりも高く、改善の必要性がうかがえます。
- ・“観光案内活動（観光ボランティア）”はプラス評価が14.1%で他の項目よりの低くなっており、今後の事業展開のあり方について検討する必要性がうかがえます。

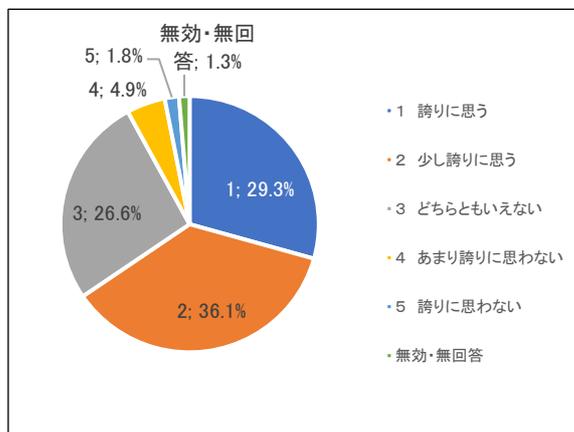
■主要な地域活動に対する満足度



⑦公園や歴史的資源への誇り

- ・天平の丘公園や歴史的資源に対する誇りについては、「誇りに思う」29.3%、「少し誇りに思う」36.1%であり、市民として“誇り・プライド・愛着”をとれるプラス評価が約7割を占めることから、今回の公園再整備は大変重要な取組といえます。

■公園や歴史的資源に対する誇り



⑧自由意見における主な施設整備の要望

- ・本公園の利用促進や魅力向上に必要な施設整備に関する意見を求めたところ、多くの回答をいただき、その中でも特に要望が高かったものは次のとおりです。

■整備要望が多かった施設（上位5つ）

要望の概要		意見数
1位	清潔感があり、利用しやすいトイレへの改善 〔主な理由〕 <ul style="list-style-type: none"> ・公園リピーター確保にはきれいなトイレの有無が重要 ・乳幼児の利用では安全で衛生的なトイレ環境が必要 ・バリアフリーに配慮したトイレの整備 ・イベント時は簡易トイレの増加が必要 	31件
2位	利便性の高い駐車場の確保 〔主な理由〕 <ul style="list-style-type: none"> ・大部分の駐車マスが消えていることから駐車しにくい ・ワンボックスカー等の大型乗用車でも駐車しやすい大きさが必要 ・花まつりにおいて駐車場が少ない ・アスファルト舗装で駐車しやすいようにしてほしい 	19件
3位	日よけがあるベンチなどの休憩施設の整備 〔主な理由〕 <ul style="list-style-type: none"> ・日差しや急な小雨がしのげる屋根付きのベンチが欲しい ・子どもの保護者が利用できる日よけベンチが欲しい ・日陰になるパラソルがあると子どもと遊びに行きやすい 	16件
	噴水などの子どもが遊べる親水空間の整備 〔主な理由〕 <ul style="list-style-type: none"> ・噴水などの水遊びができる場の整備 ・子ども向けのジャブジャブ池などの水遊びスポット 	
5位	四季の花など年間を通して楽しめる緑地空間の形成 〔主な理由〕 <ul style="list-style-type: none"> ・万葉植物園がとても悲しい状況になっている ・春の桜だけではなく、四季を通して人が訪れたい環境づくりが必要 	13件

第3章 天平の丘公園再整備にあたっての課題

3-1 自然要素の課題

1) 桜樹勢の老木化、更新の停滞

①現状と取組

- ・天平の丘公園における桜の環境づくりは、昭和50年に尼寺跡周辺への八重桜の植栽にはじまり、その後、昭和60年に尼寺史跡公園へ淡墨桜の植栽、風土記の丘エリアには西行桜、花広場エリアには八重桜・滝桜、夜明け前エリアには石割桜・八重桜・十月桜・百日紅、平地林エリアには十月桜が植栽され、今日に至ります。
- ・根尾淡墨桜、山高神代桜、三春滝桜の日本三大桜や盛岡石割桜など、名立たる桜の子孫樹が一堂に集まる「天平の花まつり」は、3月末の淡墨桜から4月末の八重桜まで約1ヶ月間に渡り、桜を鑑賞することができ、20万人誘客の原動力となっています。
- ・老木化や根元の踏圧などにより樹勢の衰えが進行している状況にあり、子孫樹の計画的な育成などが求められます。

②市民・利用者等の意向

- ・市民の約9割が来訪歴を持ち、その多くは花まつり時の来訪を含むものであり、子どもから大人まで花と緑を楽しむことで、郷土愛の醸成にとっても大きな拠り所としての性格を持っています。
- ・来訪者数は近年20万人前後で推移していますが、来訪者の意見には老木化等の進行により、以前よりも花つきが悪くなっていることから、改善を求める声が多く寄せられています。

③課題のまとめ

- ・桜の再生に向けて、既存の樹木を残す取組の継続とともに、子孫樹の育成や桜の植え替えなど、次世代にこの特出した資源を引き継ぐことが急務となっています。

2) 借用民有地における管理水準の調整

①現状と取組

- ・本公園は約27.4haの面積を有していますが、その一部は借用民有地であり、平地林エリア内で点在と花広場南エリアの東駐車場南側に分布した状況で、合計約2.8haの広がりとなります。
- ・市有地での日常的な管理においては、樹木密集箇所での間伐をはじめ、下草刈りや園路部にかかる枝打ち、園路補修などの安全性や衛生性の確保に努めています。また、市民団体である平美林会による定例清掃も実施しています。
- ・借用民有地においても基本的に同様の管理を実施していますが、所有権との兼ね合いから、樹木の間伐管理は所有者許可のもとに実施する仕組みであり、また土地の形状変化を伴う整備はしないこととしています。

②市民・利用者等の意向

- ・平地林エリアにおいては、森林浴やウォーキングなど軽運動のコースとして日常的に利用されている人気の高いエリアですが、アンケート調査や利用者からは、樹木や枝が密集する部分に対しては、日照確保や衛生管理を望む意見も挙げられています。

③課題のまとめ

- ・過繁茂な樹林箇所においては、樹勢が衰えた老木や倒木の恐れがある樹木を伐採するなどの適正管理が求められることから、借用民有地の公有化を検討し、計画的・効率的な管理を実施できる環境を整えることが必要です。
- ・東駐車場においては、駐車スペースの増加やバリアフリー環境の確保、隣接樹林部の適正管理のため、借用民有地の公有化を検討する必要があります。

3) 四季折々の花や緑による魅力の向上

①現状と取組

- ・公園内にはホトトギスソウ（国見山周辺・平地林内）、コバギボウシ（国見山周辺・平地林内）、ヒヨドリソウ（平地林内）などの季節を彩る個性的な草花が自生していますが、その周囲には雑草や枝が繁茂するなど、必ずしも良好な生育環境が整っている状況ではなく、また、公園利用者への十分な魅力発信ができていない現状です。
- ・夜明け前エリアでは芝生広場周辺等にはツツジが生育しており、花まつりの後半期での人気スポットとなっています。
- ・平地林エリアの南西部には万葉植物園があり、万葉集に収録された歌に詠まれている植物を植栽し、市民団体と行政の協力のもと管理してきましたが、昭和63年から平成4年までの整備から時間が経過したことから、花木等の老木化等により花つきが悪くなり、施設老朽化等による花壇やネームプレートの破損・紛失が多くみられます。

②市民・利用者等の意向

- ・本公園は、花まつりでの春に賑わうイメージが非常に強いことから、四季を通して楽しめるように季節ごとに咲く花の育成を望む声が多く挙げられています。
- ・万葉植物園に対して、雑草の増加による魅力低下の改善、施設自体の周知不足を指摘する意見が挙げられています。

③課題のまとめ

- ・通年での公園利用者を増加させるためには、四季折々に楽しめる魅力的な自然空間や風景づくりが必須要件となることから、平地林の保全活用として、本公園の特徴である花や緑の演出の見直しを行い、平地林の保全活用を広く周知することが必要です。
- ・近年高まる自然志向・健康志向に対する場の雰囲気づくりとともに、若者層を中心に広がるSNS活用等による情報発信において美しい風景として“映える場”づくりが必要で

4) 水辺施設の老朽化と更新

①現状と取組

- ・園内の水辺施設は平地林エリアに集約されており、明日香川、明日香池、水生植物園、子宝橋があり、周辺の樹林等の緑空間と調和した景観を形成しているとともに、スイレンなどの水生植物の群生、夏の昆虫採集、野鳥観察などの学びの場として活用されています。
- ・他施設と同様に整備されてからの時間経過とともに劣化がみられ、適宜、揚水ポンプや四阿など日常的な点検を通じた修繕により維持してきましたが、観察や散策のための水上歩道等の劣化も目立ち始めています。

②市民・利用者等の意向

- ・市民や来訪者からは現在の水辺施設への目立った要望はありませんが、子どもが気軽に遊べる噴水などの新たな水辺空間の新設を望む声が多く挙げられています。

③課題のまとめ

- ・現在の水辺施設は、春から秋にかけて水辺に関わる動植物に触れられる貴重な場であり、また、子ども向けの研究機会が提供されるなど、本公園の独自の魅力であることから、引き続き安定した水質や水量確保などの環境維持の継続が必要です。
- ・新たな市民ニーズである子どもの遊べる親水施設について、公園利用者の増加を図る上でも重要な要素としてとらえ、その環境づくりを検討することが必要です。

3-2 公園利用要素の課題

1) トイレの衛生環境と美観の維持

①現状と取組

- ・公園内の屋外に設置されるトイレは、花広場エリア、夜明け前エリア、平地林エリアの3箇所がありますが、整備からの時間経過により便器や手洗い場等サニタリー部分の破損・劣化がみられ、日常的な管理を通して修繕対応しています。
- ・屋根・壁面・床・パーテーションなどの建物本体にも傷みが進行しており、早急な対応が望まれる状況です。

②市民・利用者等の意向

- ・市民アンケートでトイレは最も満足度の低い評価であり、施設数やイベント時臨時設置の増設の意見とともに、特に女性や子育て世代からは衛生的で安心感や明るい雰囲気のあるトイレを望む声が多く寄せられています。
- ・高齢社会や福祉環境の視点からバリアフリー化を望む声も挙げられています。

③課題のまとめ

- ・あらゆる年齢層が利用する公園において、トイレにおける衛生環境と美観の維持は特に重要性が高く、公園利用者の増加を促進するうえでの公園の好感度を高めるためにも早急に市民ニーズへ対応することが必要です。

2) 休憩施設の老朽化、更新の停滞

①現状と取組

- ・園内の主な休憩施設として四阿が2箇所設置されていますが、他の施設同様に劣化が進行している状況にあり、安全度合いを判断しながら修繕又は撤去を実施しています。
- ・ベンチについては、散策路に沿って各所に配置しており、利用しやすい環境にありますが、一部では外装の劣化が進行しています。
- ・令和2年3月に新設した夜明け前エリアこども広場では日よけ付きも含め新たなベンチも多く設置したほか、平地林エリアでは既存ベンチ周辺にウッドチップを敷設するなど、状況に応じた施設維持を行っています。

②市民・利用者等の意向

- ・公園利用者からは、四阿及びその周辺におけるゴミの片付けなど衛生管理を望む声が寄せられています。
- ・市民アンケートでは、特に子育て世代から、子どもとの利用時での安全性や急な降雨への配慮から屋根付き休憩施設の充実を望む声が寄せられています。

③課題のまとめ

- ・休憩施設全体の配置状況をふまえた上で、子育て世代の利用においては安全性の向上に配慮し、休憩機能が不足する範囲において、日よけ付きベンチ等のニーズにあった休憩施設の設置の検討が必要です。

3) 子育て支援環境としての機能向上

①現状と取組

- ・本公園では市街地郊外（市街地調整区域）における子育て環境の向上策として令和2年3月に複合遊具を配置したこども広場を供用開始したところであり、隣接する古民家カフェでの飲食提供を合わせ、利用者から高評価を得ています。

②市民・利用者等の意向

- ・こども広場利用者からは遊びスペースの拡大などにより充実を求める声が聞かれるとともに、市民アンケートでは、特に夏場でも利用できるように、水遊び施設や日差しに配慮した休憩スペースの確保を望む声が挙げられています。

③課題のまとめ

- ・本公園が位置する市街地郊外部（市街地調整区域）では、日常的に子どもを連れて気軽に利用できる遊び場が少ないことから、地域としての子育て支援環境としての魅力を高める必要があります。

4) 園路等の老朽化と利用性への対応

①現状と取組

- ・平地林エリア以外における園路は、新設されたこども広場の周辺を除き、おおむね舗装整備されており、移動しやすい環境が整っている状況です。また、花まつり等イベントではロードトレイン「坊っちゃん列車」の運行ルートとしても活用されています。
- ・一部では路肩が破損する園路区間もあり、歩行者の安全性や園内管理用車両の通行に支障が出ています。
- ・平地林エリア内の園路においては大部分が未舗装であり、その傍らにコケが生育するなど森林散策路としての自然的な雰囲気を作り出していますが、一方で大雨等による土流出による破損や雨上がり後のぬかるみによる歩きにくさも見受けられます。
- ・平地林により当エリア内は暗くなる時間が早いことから、既存の外灯の老朽化対策と照度確保のためにLED化を進めています。

②市民・利用者等の意向

- ・市民アンケートでは、平地林散策路の歩きやすさの満足度が高く、ウォーキング・ジョギング活用でも評価されていますが、一方で高齢者や車椅子での利用しにくさ、散策路に沿った明るさの向上などの声も寄せられています。

③課題のまとめ

- ・園路は、エリアごとの使われ方やイベント開催時の対応とともに、利用者の安全性や効率的な管理の実施を踏まえた整備の検討が必要です。

3-3 おもてなし要素の課題

1) 駐車場の老朽化と利用層の変化等への対応

①現状と取組

- ・本公園の駐車場は4箇所を設置していますが、特に日常的に活用されている夜明け前駐車場、花まつり時のメインとなる西駐車場は、駐車枠の白線塗装が劣化で認識しにくく、イベント時には石灰により応急的処置をしている状況です。
- ・東駐車場はイベント時の駐車場利用が主体となっています。その面積の大部分が借用民有地であることから返還時に備えた砂利敷き駐車場で管理していますが、南側に隣接する樹林地の枝の過繁茂により、駐車スペースの使用に支障がある状況です。
- ・本公園西側の下野国分寺跡と近接する駐車場は西駐車場であり、現在は市道2-22号線での移動のみです。公園利用者の利便性を図るため、同再整備事業での新ルートづくりの必要性があります。

②市民・利用者等の意向

- ・市民アンケートでは駐車場への満足度は比較的高く、いつでも利用できることが好評ですが、一方では駐車枠が消えていることから目安がなくて駐車しにくいとの声や運転が不慣れでも駐車しやすい配慮を求める意見もあります。
- ・日常的に最も利用されている夜明け前駐車場は、子育て世代等がワンボックスカーで来訪する機会が多いことから、特にゆとりへの配慮の意見が挙げられています。

③課題のまとめ

- ・駐車場の再整備にあたっては、イベント開催時の円滑な駐車場出入りも合わせ、今までのスペースよりも安心して駐車出来るように配慮するとともに、バリアフリーに配慮した思いやり駐車スペースも適切に確保することが必要です。
- ・公園利用者の利便性を図るため、歴史資源である下野国分寺跡とその他の公園エリアとの連携を高める新規連絡ルートの設置の検討が必要です。

2) 歩道におけるバリアフリー化の遅れ

①現状と取組

- ・本公園への主要アクセス道路である市道 2-22 号線は、総幅員 8.5m で片側歩道（幅員 1.5m）ですが、風土記の丘資料館エリアの南側は緩やかなカーブとマウントアップ段差のある歩行空間で、公園利用者のすれ違いにも支障がある状況です。

②市民・利用者等の意向

- ・市民アンケートでは、高齢者や車椅子での移動に配慮した安全な歩道を求める声が挙げられています。

③課題のまとめ

- ・市道 2-22 号線は夜明け前・西・東駐車場から各エリアへの主要移動ルートであり、様々な利用者が歩行移動することから、現状よりも歩きやすさ・バリアフリー環境の向上のための検討が必要です。

3) 施設案内サインの老朽化と数量の不足

①現状と取組

- ・公園の案内施設には、夜明け前駐車場及び南駐車場内の大型案内表示板がありますが、整備からの時間経過による劣化が進行し、表示の見づらさなど支障が出ています。
- ・園内においても西駐車場等に移動方向を示すための施設誘導案内柱等が配置されていますが、整備からの時間経過による劣化や破損がみられる状況です。

②市民・利用者等の意向

- ・市民アンケートや利用者からは、多くのエリアや施設へ円滑に分かりやすく移動するための誘導サインの見直しを求める声が寄せられています。

③課題のまとめ

- ・現在の公園案内表示板や誘導サインは劣化とともに、古民家カフェやこども広場、また市民要望をふまえた新規施設の配置も進められることから、表示内容を一新した再整備の検討が必要です。

3-4 運営・管理面の課題

1) 公園利用と文化財保護の両立による観光促進

①現状と取組

- ・下野国分寺跡史跡保存整備が完了し、下野国分尼寺跡の第2期史跡保存整備事業も令和3年で終了することから、歴史とその他公園エリアの魅力を相互に活かした取組により、都市活性化としての観光を促進していく段階にあります。
- ・「下野市歴史的風致維持向上計画」の重点地域：国分寺地区における天平の丘公園再整備事業をはじめとした各種取組や「東の飛鳥プロジェクト」による都市ブランドの構築のための取組は、本公園も関わる重要な位置づけにあります。

②市民・利用者等の意向

- ・市民アンケートでは「東の飛鳥プロジェクト」によるシティプロモーションの認知度が約35%であり、今後いっそうの周知を図る必要性があります。

③課題のまとめ

- ・本市の観光促進には、市民と行政と観光関係団体に加えて文化関係組織が一体となって特色ある魅力を市内外に発信していくことが求められます。また、各分野の連携を強化する体制確立も必要です。

2) 市民団体による管理組織等における高齢化

①現状と取組

- ・本公園の管理においては、行政と市民団体である平美林会を中心に環境維持としての管理を実施していますが、同団体構成員の高齢化が進んでおり、今後、活動範囲の縮小が懸念されています。

②市民・利用者等の意向

- ・市民アンケートでは、歴史伝承・清掃活動・観光案内等における地域活動の満足度は低く、地域活動しやすい環境づくりの必要性があります。

③課題のまとめ

- ・本公園は下野国分寺跡や下野国分尼寺跡の史跡調査・保存から始まって、現在の公園管理に至るまで、行政との相互協力のなかで地域住民が主体的に行ってきた経過があり、郷土愛の醸成に大きく関わってきたことから、今後もその体制を維持できる仕組みの検討が必要です。

■夜桜も楽しめる天平
の花まつり



■しもつけ燈桜会の芝
生広場会場のようす



■しもつけ燈桜会は
4,000 個以上の燈で
夜景を演出

